

## 仙台スポーツリレートーク・レポート

主催 市民スポーツボランティア SV2004

私たちはスポーツボランティアとして幅広いスポーツをサポートしています。そのスポーツに関わるキーとなる方に、現在のスポーツ事情や将来への展望に関して話しを聞くことができれば、私たちの活動はもっと広がり豊かになると考え、ボランティアの栄養補給と夢の実現の場として企画したものが「仙台スポーツリレートーク」です。

---

---

第一回 「宮城のラグビーの今 ~ 2019年ワールドカップに向けて」

スピーカー 宮城県ラグビーフットボール協会 理事長 菊地 祐一 さん

日時 2010年7月29日(木) 19時~21時

会場 仙台市中央市民センター 第一セミナールーム

参加者 ボランティア関連 10名 協会関連 3名 計 13名

私たち市民有志のスポーツボランティアがSV2004という組織を立ち上げたとき、一番はじめに活動の場を提供してくれたのが実は「宮城県ラグビーフットボール協会」であったことを知る人間は随分少なくなっていました。縁あって改めて今年から新しい理事長に就任された菊地さんからお話しを聞く機会を持つことが出来ました。

前半のテーマは「宮城県ラグビーの今」ということで、大正15年に始まる宮城のラグビーの歴史から、2016年のオリンピックで正式種目に決定した7人制ラグビーでは国内でも先駆的な取組を行ない、過去3年間日本代表戦を宮城で開催し国際大会開催の経験を積み上げてきたということでした。観客数は最高8千人弱であり、まずは1万人がターゲットであることや、観客の年齢構成では40~50代が中心で今後女性やこどもの集客が課題と考えており、具体的には「わかりにくい基本的なルールの丁寧な説明」・「日常的で身近なラグビーに関する情報提供」・「気軽に楽しめるタグラグビーの普及」・「女子ラグビーの普及」・「ラグビー専用グラウンドの整備」などに取組みたいというお話しでした。

後半のテーマは2019年に日本で開催される「ワールドカップ大会」についてで、まずは仙台・宮城での開催に向けた「招致委員会」を協会が中心となり、行政や地元経済界など幅広い団体・組織を巻き込みどこよりも早く立ち上げたいこと、同時にワールドカップの周知や機運の醸成のための活動を担う市民組織を立ち上げ、ゲームサポートのためのボランティア活動とは違った幅広い支援活動を作り上げていくこと、その意味では日本ラグビーフットボール協会が示す「We are Rugby Family ~ ノーサイドの精神」の理念を十分に尊重し、ラグビーに関わる人を一人でも多く増やすことに取組みたいとのことでした。

約1時間ほどのお話しのあと、参加者はお茶を飲みながら気軽な意見の交換を楽しみました。2019年のラグビーワールドカップの周知以前に、まずはラグビーの存在を広く知っていただくことが大切ということでは、正式な招致委員会発足に向けての準備委員会や、同様に正式な市民支援組織を立ち上げる前に有志による準備組織を作り、その中でさまざまな計画・手段についてまとめていきたいという提案がありました。

具体的な活動では、宮城スタジアムなどで行われるスポーツイベントにラグビーなど気軽に誰でも参加できる企画で参加することや、ボール自体に親んでもらうことの大切さについて意見がでたほか、留学生による交流イベント、こどもや女性向けの企画なども提案されました。また、既に宮城では一般化しているスポーツイベントでのごみの分別回収を中心としたエコ活動についても、ぜひ先進的な取組を実施したいことで一致しました。宮城には2002年に開催したサッカーの世界カップで多くの市民が支援活動を展開した実績があり、まずは開催地決定に向けて市民組織を作ることも意見がまとまりました。

一方ではワールドカップ後に何を残すべきかを意識した取組が大切であり、その意味では地域を拠点として活動し市民の応援を受ける地元チームの必要性や、そのための施設の充実や人材の育成についても提案がありました。テーマが非常に大きなものということで時間はあまりに短く結論までは出せませんでした。私たちスポーツボランティアにとっては、新しい夢と目標が生まれた貴重な時間となりました。今後も継続的に話し合いを行い具体的なものを作っていきたいと思います。参加していただいた皆様、ありがとうございました。